

**染織 芹沢銈介の美の世界**

芹沢銈介は、明治の末から大正初期にかけて『大正デモクラシー』の新風をよく時代に青春期を過ごし、芸術を志した。やがて工藝の道へと歩みだす。その行く手を指し示したのは、民芸運動の指導者・柳宗悦であり、沖繩の『紅型』であった。作品は多種多彩。型染めはもちろん、型絵染めを生かした装丁、挿画、そして多くの生活工芸品のデザインにまで及び、どれも比類ない輝きに満ちている。

・文部省選定・芸術祭大賞（文化庁）  
・教育映画祭優秀作品賞・優秀映画鑑賞会推薦

監督・演出 村山 英治 製作会社 桜映画社 1984年製作(35分)



**染織 山田貢の友禪 — 風 —**

友禪の重要無形文化財保持者、山田貢。現代感覚のなかに優雅な味わいを漂わせたその作風は、力強い線の構成による大胆にして簡明な意匠に特徴づけられる。自らスケッチを重ね、イメージした松文、麦穂文、網干文、波文、巴文を題材に伝統的な糯米による糸目、せき出し、叩きの各糊を巧みに用いた表現は根気のいる作業の連続である。確かなわざに基づく美の世界を映し出す。

・文部省選定  
・文化庁優秀映画作品賞  
・(文化庁)芸術祭優秀賞

監督・演出 松川八洲雄 製作会社 英映画社 1995年製作(34分)

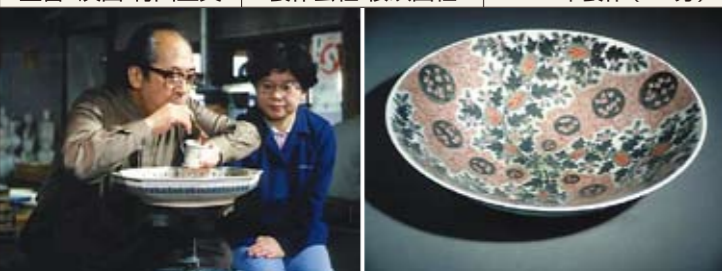


**陶芸 十三代今右衛門 薄墨の美**

今泉今右衛門家は有田赤絵町の中ほどにあって、鍋島藩窯が焼造する色絵磁器、いわゆる「色鍋島」の御用赤絵屋を代々つとめてきた。明治以降、色鍋島の窯焼きから上絵付まで、分業的工を一貫して経営する窯元として、その伝統的な様式・技法を受け継いできた。重要無形文化財「色絵磁器」の保持者・十三代今右衛門は、伝統的技法で作られる「色鍋島」と一陶芸作家として新たな創造的制作を行うという相反する環境の中で、伝統の中に新しさを再発見していく創作活動の軌跡を追う。

・文部省選定・文化庁優秀映画作品賞  
・毎日映画コンクール「記録文化映画賞」・キネマ旬報ベストテン第3位  
・日本映画ペンクラブ賞推薦

監督・演出 村山正実 製作会社 桜映画社 1994年製作(36分)



**染織 紬に生きる — 宗廣力三 —**

岐阜県郡上郡八幡町初音に生まれ、故郷の紬を「郡上紬」として広く世に知らしめた工芸家・宗廣力三。常に原点に立ちもどることを忘れない彼の紬織は、深みがあって、あたたかい。えり蚕で紡いだ糸の風合いにこだわり、困難といわれていたえり蚕の飼育に努めながら現代の紬、絣織のあり方に真摯に挑む姿勢を映し出す。

・文部省選定・日本紹介映画コンクール審査員特別賞  
・優秀映画鑑賞会推薦・優秀映像教材選奨優秀作品賞

監督・演出 黒崎 洋一 製作会社 日経映像 1988年製作(32分)



**陶芸 藤本能道の色絵磁器 — 釉描加彩 —**

重要無形文化財保持者の藤本能道は、色絵磁器の第一人者である。「試行錯誤の不連続線」と自ら語るように、彼の創作活動は模索と探求の連続であった。そのような活動の中で「釉描加彩」と名づけた新しい技法が生まれたのは、65歳を過ぎてからであった。複雑微妙な色調、立体感、奥行き表現など新しい色絵磁器の世界を可能にした彼の表現技法は、中国明時代に完成されたといわれる伝統的技法に画期的な新局面を開いた。

・文部省特別選定・教育映画祭優秀作品賞  
・優秀映画鑑賞会推薦・日本映画ペンクラブ推薦

監督・演出 村山 正実 製作会社 桜映画社 1987年製作(33分)



**陶芸 備前焼 伊勢崎淳の挑戦 — 伝統と革新のはざままで —**

備前焼5人目の人間国宝・伊勢崎淳は伝統的な作風、技法を探究しつつ、伝統との格闘、伝統と現代の葛藤を続けながら、斬新な発想で創意に富む独自の作陶で主導的な役割を担い、現代の備前焼の動向を握る人物である。氏は言う「伝統とは革新の連鎖であり、今備前に最も必要なものは「冒険」である」と。明日に全てを賭けて挑戦する氏の生き様を、卓越した技を通して描いていく。

・優秀映像教材選奨最優秀作品賞

監督・演出 有泉 寧 製作会社 日経映像 2007年製作(33分)



**漆芸 重要無形文化財 輪島塗に生きる**

しんと静まり返った塗師の上塗部屋に、ひたすらに運ぶ刷毛のすべりが、耳をすますとくすかに聞こえる。それは、職人と漆との静かではあるが壮烈な戦いである。本映画は輪島塗の技術を後世に伝えるための技術記録として作成された、重要無形文化財輪島塗技術保存会員による輪島塗の高度な技術を要求される懸盤一式の作品の完全な記録である。

・文部省選定・日本紹介映画コンクール金賞  
・教育映画祭最優秀作品賞（文部大臣賞）・日本映画ペンクラブ推薦  
・優秀映画鑑賞会推薦

監督・演出 村山 和雄 製作会社 桜映画社 1990年製作(34分)



**人形 にんぎょう**

二人の人間国宝、野口園生、市橋とし子の人形作品と、その制作工程をたどりながら日本人にとって人形とは何かを探る。縄文時代の土偶に始まり、江戸時代の爛熟した文化から生まれた「にんぎょう」は、日本人の精神文化における「心のイレモノ」であった。時代と人形の変遷に注目するとともに、時間と空間を超えて私たちに語りかけてくる「にんぎょう」を映し出す。

・文部省選定・日本映画ペンクラブ推薦  
・優秀映画鑑賞会推薦  
・優秀映像教材選奨優秀作品賞

監督・演出 松川 八洲雄 製作会社 英映画社 1992年製作(34分)



**漆芸 磯井正美のわざ — 蒔醬の美 —**

蒔醬—漆器の表面に彫刻刀で文様を彫り、色漆を埋めて研ぎ、華やかな色彩の線描文様を表す。この技法は香川漆器を代表するもので、この地方に花開いた独自の技術である。本映画では、蒔醬の卓越したわざで人間国宝に認定された磯井正美が、この技法のルーツ、東南アジアのマンマーを訪ねたことにより得た新たな美の世界を創作する。

・文部省特別選定  
・日本映画ペンクラブ推薦  
・優秀映画鑑賞会推薦

監督・演出 黒崎 洋一 製作会社 日経映像 1992年製作(40分)



**竹工芸 竹工芸 飯塚小玗齋**

細く薄く加工した竹は、強く曲げすぎると折れる。そのギリギリの限界に挑戦し、ためこむことによって美を引き出す。作者におごりがあれば、竹は正直に非情のムチを打つ。無理に曲げようすると竹が痛がる。竹を知り、その特性を読む創造、そこに最高の喜びがあると飯塚小玗齋は言う。映画の中では、「束編み」を現代的な感覚で巧みに応用し、伝統的な技法や自ら工夫した編組技法を駆使して、美を追求する。

・文部省選定・優秀映画文部科学省特選  
・日本紹介映画コンクール銀賞・キネマ旬報ベストテン第3位  
・優秀映画鑑賞会推薦・日本映画ペンクラブ推薦  
・優秀映像教材選奨最優秀作品賞（文部大臣賞）

監督・演出 石井 敏朗 製作会社 毎日映画社 1986年製作(30分)



**既刊 伝統の技と心 第1集 全10巻**

- 陶芸 呉須三味 — 近藤悠三の世界 —
- 陶芸 土と炎と人と — 清水卯一のみわざ —
- 染織 芭蕉布を織る女たち — 連帯の手わざ —
- 染織 彩なす首里の織物 — 宮平初子 —
- 漆芸 変幻自在 — 田口善国・蒔繪の美 —
- 人形 人形作家 秋山信子 — 心やすらぐ人形を —
- その他工芸 西出大三 截金の美
- 能狂言 狂言師・三宅藤九郎
- 民俗芸能 神々のふるさと・出雲神楽
- 民俗芸能 — 琵琶湖・長浜 — 曳山まつり



KKCL-7 ¥210,000 (税抜価格 ¥200,000)